

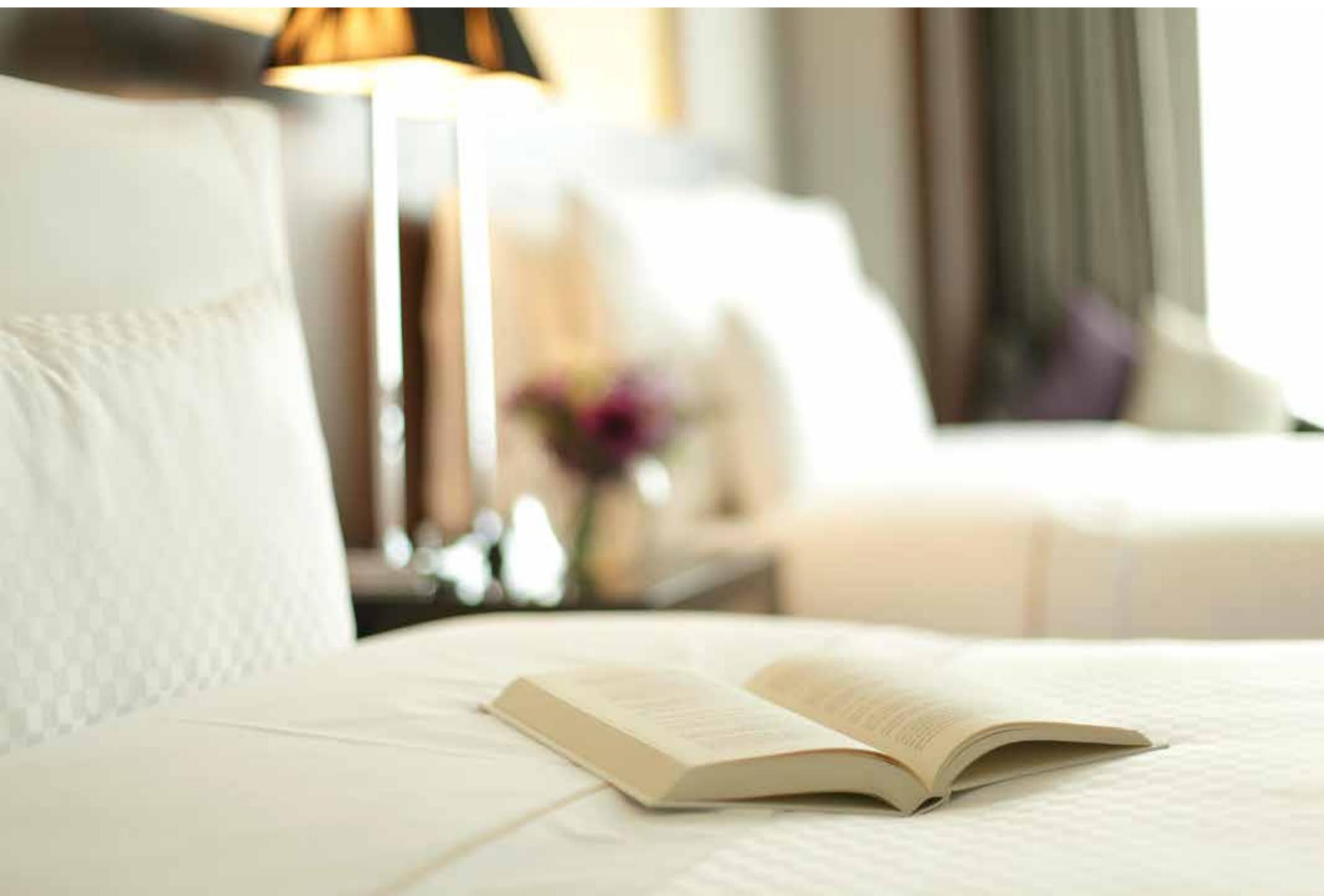
THE WESTIN

SENDAI

12ヶ月のブログリレー

わたしの仙台ストーリー

1月の旅人





- ・この地図は Google マップサービスを利用しています。
- ・地図内のルートは旅人の訪問地、訪問順に基づき、Google マップの仕様に合わせておすすめのルートを作成したもので、旅人が実際に使用したルートと異なる場合があります。
- ・当データからリンクしている Google マップページについては、Google の責任の下、管理されているものであり、Google に起因する不具合等について当ホテルはいかなる責任も負いません。



1月の旅人

バングレ 様 [佐賀県・女性]

仙台が輩出した偉大な佐藤忠良氏の作品に、仙台の地でじかに触れてみたい。



佐藤 忠良 (さとう ちゅうりょう) ・彫刻家

1912年7月4日、宮城県生まれ。生命感あふれる人物像をブロンズや木彫で表現。その洗練された造形美は、国内はもとより海外でも高い評価を受けた。代表作に「群馬の人」(1952年)や「帽子・夏」(1972年)などがある。2011年3月、東京都のアトリエで98年の生涯を閉じた。

今回は、私バングレが、12月の旅人、空っ風太郎さんからのバトンを繋いでいきたいと思えます。

佐藤忠良さんという彫刻家が宮城県で生まれ、ここ仙台にその記念美術館があると知ったのは、末娘が東北大学に入学して間もないころでした。とあるテレビ局で彼のドキュメンタリー番組が放映されており、それを偶然目にしたのです。

南国九州から、はるばる遠く仙台という地を選んで旅立った末娘のことが何より気がかりだった私は、彼が仙台ゆかりの人である事を知り、磁石に吸い寄せられる砂鉄のように、映像の中の彼に見入ってしまいました。お恥ずかしい話、その時の私は、彼が日本の芸術史に輝かしい足跡を残した人であり、日本の美術教育の発展のために多大な貢献をなした、偉大な人物であるということを知りませんでした。

映像から推し量られる彼の素朴で温かい人間性、世界的に高い評価を受けつつも、あくまで自分は職人だと、胸を張って言い切るその潔さに感銘を受け、私は、娘の第二の故郷となりつつある仙台の地で、直に彼の作品を見てみたくなりました。

そんな時です。今回のブログリレーという企画を知ったのは。しかも憧れのウェスティンホテルということで、私は迷わず応募の原稿をしたためました。まさかこんな私が選出されるなんて思ってもいなかっただけに、通知のメールをいただいた時は年甲斐もなく絶叫してしまいました(笑)。

1月18日、飛行機で仙台空港に到着。

なんと、ここのロータリーにも佐藤忠良氏の作品があります。あの東日本大震災時、泥に埋もれつつも立派に耐え抜いたそうです。美しく、健気に空へ向かって羽ばたくこの像は、まさしく復興のシンボルと言えそうです。

娘の通う大学から徒歩圏内にある宮城県美術館。前日の大雪で、一面銀世界、身も心も洗われるようです。私の住む佐賀では、これほどの雪を見ることはまずありません。これこそ旅の醍醐味なんて喜ぶのは、冬の厳しさと対峙している雪国の人々に対していささか不謹慎でしょうか？

今回何ともタイミングがいいことに佐藤忠良氏を偲ぶ、生誕100年記念展示会が催されていました。館内は、写真撮影禁止でした



1月

12ヶ月のブログリレー
わたしの仙台ストーリー

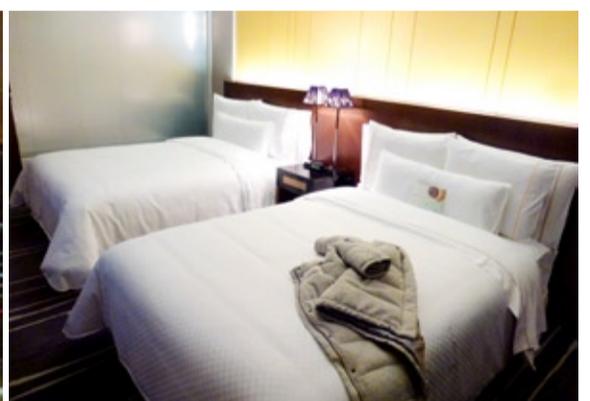
ので、庭の作品をいくつかご紹介しましょう。美術館の裏庭や中庭には、国内外の著名な作家の彫像が無造作に置かれていて、館外だけでも十分に楽しめます。

やはり、写真で見ると、生で見るとは、伝わってくるものが全然違います。彫刻ではなく、まるで生きているかのようです。息遣いまで聞こえてきそうな錯覚に陥りそうです。彼の鋭い観察眼による徹底した写実主義の中にも、ほとぼしる人間愛が感じられて、見る者の心を打ちます。

ここで、佐藤忠良氏が、無償で書いたという教科書の原稿の中から、一部分を抜粋させていただきます。彼の人となりが見えるのではないのでしょうか。

「人間が生きるためには知ることが大切です。同じように感ずることが大切です。私はみなさんの一人一人に、ほんとうの喜び、悲しみ、怒りがどんなものかがわかる人間になってもらいたいです。美術を真剣に学んでください。真剣に学ばないと感ずる心は育たないのです。」

さて、芸術で心を満たした後は、いざ、待ちに待ったウェスティンホテル仙台へ。仙台の街中であってひと際聳え立つホテルの玄関前には、美しいイルミネーションの数々が…。想像していた以上に素敵なホテルです。スタッフの方々のスマートな対応と、温かい笑顔に緊張感もほぐれていきます。



娘の誕生日会を兼ねた今回のホテルステイ。

ワインでの乾杯からはじまり、シンフォニーでの豪華な料理の数々が花を添えてくれます。ここだけのお話、多少苦手な食べ物があり、事前にホテルの方にご相談申し上げておりましたら…

なんとありがたいことに、運ばれてきたお料理はみな私たちが唸らすものばかりでした。

とびきりご機嫌のわが娘。目で楽しみ、舌で味わう、至福のひ

とときを過ごさせていただきました。

36階の部屋から望む、夜の仙台の街は圧巻です。

備え付けのふかふかのバスローブに身を包み、極上の眠りを誘うというヘブンリーベッドに身を委ねながら、母娘水入らずよもやま話に花を咲かせた夜でした。



1月 12ヶ月のブログリレー わたしの仙台ストーリー

翌日の朝食も、シンフォニーにて。和食も朝食も選べるという、嬉しい心遣いのバイキング。席に着けば、淹れたてのコーヒーを頂けるという、至れり尽くせりのおもてなしに、二人とも感激しきりでした。朝の眺めも絶景です。今日は天気恵まれ空は澄み渡っています。なんと、はるか遠く仙台港まで望めます。実にすがすがしい朝です。

極上のホテルステイに名残は尽きませんが、今日の目的地へいざ出発。



皆さん、この絵おわかりですね？
 そうです。かの有名な「おおきなかぶ」の挿絵です。
 このおなじみの絵が、佐藤忠良氏の手によるものだと知った時は、本当に驚きました。彼は、実に多くの子供の絵本を手がけたそうです。
 この写真は、仙台にある、宮城県立こども病院が開院した際、佐藤忠良氏に依頼して制作してもらったブロンズのレリーフです。病院という場所柄、写真に収めることを少々躊躇したのですが、病院のスタッフの方々と佐藤忠良氏の思いをお伝えしたくて、掲載させていただきました。どんな苦境も、「うんとこしょ。どっこいしょ。」と皆が心をつなぐことで乗り越えようとの思いが、震災後の東北の方々の思いと通じるようで、胸が熱くなりました。

さて、いよいよ最後の目的地、青葉区にある、JR仙山線の愛子（あやし）駅です。愛子さまご生誕の折に話題になったところだそ

うです。
 実は今回旅を共にした、末娘の名前も（愛子）でして、一度一緒に訪れたいと願っていた場所でした。無造作に木で造られた駅の名前板が何とも温かい雰囲気を醸し出していますね。平成から昭和の時代にタイムスリップしたかのようです。

佐藤忠良氏の足跡を辿ることから始めた今回の二人旅ですが、嬉々としてシャッターを切る娘の姿を私の心のアルバムに収めたところで、そろそろ筆を置こうかと思えます。拙いブログに長々とお付き合いくださりありがとうございました。私のブログが、仙台を旅される皆さまの何らかのお役に立つことが出来れば幸いに存じます。

2月の旅人、菅原さん、バトンをお渡ししますね。どうか素敵な旅を。